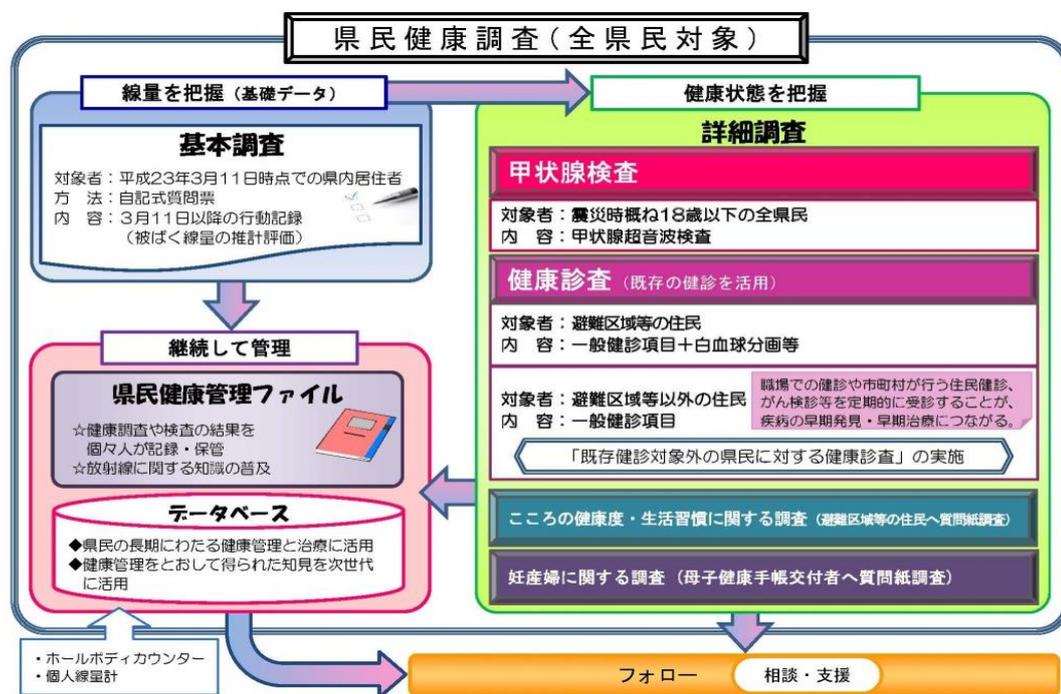


派遣先所属 福島県 県民健康調査課
 氏名 柳 拓也 (やなぎ たくや)、尾ノ上 陽平 (おのうえ ようへい)
 派遣期間 平成27年4月1日～平成28年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

派遣先の県民健康調査課では、主に「県民健康調査」に関する業務を行っています。これは、東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故による放射性物質の拡散や避難等を踏まえ、県民の被ばく線量の評価を行うとともに、県民の健康状態を把握し、疾病の予防、早期発見、早期治療につなげ、将来にわたる県民の健康の維持、増進を図るための事業です。(下図参照)



県民健康調査のうち、県民健康管理ファイルの交付、線量計の整備や放射線の理解促進のための市町村への補助金（福島県放射線健康対策事業費補助金）、ホールボディカウンター検査（以下WBC検査）が我々の主な業務です。

県民健康管理ファイルは、「家庭用カルテ」として、県民一人一人が、自身の健康に関する様々な調査や検査結果をまとめて記録・保存できるようにと、平成23年度より作成・発送をしています。

福島県放射線健康対策事業は、自身が受けている放射線量を個人線量計で計測し、放射線量を確認することで、自身の積極的な健康管理につなげることを目的に、市町村が住民に個人線量計を配布・貸出を行う場合や、放射線による健康影響について理解を促進するため、解説、啓発、相談等を実施する場合の費用を補助しています。



個人線量計（電子式）

個人線量計（バッジ式）

WBC 検査は、人の体内に取り込まれた放射性物質（放射性セシウム等）の量を測定し、内部被ばくを評価する検査です。（レントゲンのように X 線を体に当てて行う検査ではないので、WBC 検査によって被ばくすることはありません。）福島県では、8 台の車載式 WBC を所有し、県内の各市町村で巡回検査を実施しています。

また、県外では検査機器を保有している機関に委託するとともに、車載式 WBC を一定期間派遣し検査を実施しており、今年度で全ての都道府県への巡回を終える予定です。



WBC 検査機器

車両式 WBC

原発事故による放射線の健康への不安は未だに続いており、復興や帰還の妨げの一因になっています。そのため、個人線量計を用いた個人線量測定や WBC 検査の結果を活かし、放射線による健康不安を解消・軽減することが、重要だと考えます。

「県民健康調査」は、現在の福島県で最も重要な事業の 1 つですので、今後も少しでも福島県の皆様のお役にたてるよう努めていきたいです。

2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

現在住んでいる福島市では、市内の除染作業もほぼ終わり、空間線量も低い値で安定しています。そのため、普段の生活で放射線の影響を意識したり、生活に不自由したりすることはありません。

しかし、双葉町を始めとした浜通り地区の町村は避難指示の状態が続いており、その他の地域の避難者も含め、県内外に 10 万人以上の方が避難を余儀なくされています。9 月には楢葉町

の避難指示が解除されましたが、住民の帰還が進んでいないとニュースになっていました。買い物場所や医療など生活環境の改善が十分に進んでおらず、東京電力福島第1原発事故に伴う放射線への不安なども根強いことがその理由です。

その他にも、原発の廃炉作業や放射性廃棄物の保管や輸送といった問題が山積し、復興までの道のりは遠いと感じました。

それでも、福島県の復興は着実に進んできているように感じます。4月から6月まで繰り広げられた大型観光企画「ふくしまデスティネーキャンペーン（DC）」は期間中の観光客数は1332万人に上り、東日本大震災以降で最多となったそうです。私自身も期間中に県内をいろいろと周り、福島県の豊かな自然・文化・食に触れることができました。

食べ物は本当に美味しいものばかりです。特に日本酒は、県内各地に多くの酒蔵があり、美味しい日本酒が楽しめます。全国新酒鑑評会で3年連続金賞受賞数日本一も獲得しており、福島県は名実共に日本一の酒処だと思います。他にも福島県北部は全国でも有数のくだもの産地であり、「フルーツライン」の愛称で親しまれているフルーツロードが広がっています。さくらんぼに始まり、もも、ぶどう、なし、りんごの季節までくだもの狩りを楽しめます。福島市の名物「円盤餃子」も味わってほしい一品です。

多くの方に福島県の今を知ってもらい、訪れていただくことが何よりも復興につながると思いますので、これからも福島県を見て知って、その素晴らしさを伝えていきたいです。

